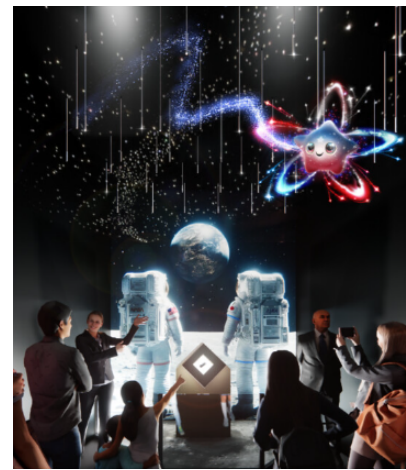


米国大使館

2025 年 4 月 4 日

米務省、2025 年大阪・関西万博の没入型宇宙展示について発表

2025 年大阪・関西万博の米国パビリオン内に、宇宙での米国の卓越性とイノベーションを紹介する特別な没入型展示を設置することを、米務省より発表いたします。足を踏み入れる来場者は、人類史上最高の冒険の一つである宇宙探査について学ぶことができます。そこでは、太古の昔の天体観測からアポロの月面着陸に至るまで、そしてこれから向かう未来に向けて、宇宙で米国がリーダーシップを明確に示してきた素晴らしい足跡を、ユニークな試作品や月のサンプル（通称「月の石」）を通して紹介していきます。



米国は、月の石を展示した 1970 年大阪万博に続き、今回の 2025 年大阪・関西万博でも新たなサンプルを展示できることをうれしく思います。この展示は、宇宙探査における米国との継続的なパートナーシップに対し、日本の皆さまへ感謝の念を示すものです。月のサンプル「70035, 41」は、1972 年 12 月のアポロ 17 号によるミッションで、NASA の宇宙飛行士ハリソン・シュミットが採取した 118 グラム（約 4 分の 1 ポンド）の一部です。これは、宇宙飛行士が月面に降り立った最後のミッションです。この玄武岩は、総重量 5765 グラムの塊の一部で、37 億年前のものであると推定されています。これは、地球表面を覆う岩石の 99.99% より古いものです。

NASA のアルテミス計画による初の月面長期滞在の実現と、人類初の火星探査への下準備が進む中、この展示は宇宙探査の未来を知るきっかけとなるでしょう。この体験は、米国パビリオンのテーマ「共に創出できることを想像しよう」を体現するもので、展示品には高さ約 3 メートルの SLS ロケットの模型、20 分の 1 サイズのジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡、そして将来の月面ミッションのためのインフラ構築に利用可能な能力を開発している ICON 社の 3D プリンター「オリンパス」の 1:20 スケールモデルなどが含まれています。

日本は引き続き、宇宙探査における米国の主要な同盟国・パートナーであり、月周回有人拠点「ゲートウェイ」用の与圧ローバーをはじめ、さまざまな機器を提供する予定です。また、日本人宇宙飛行士の参加も計画されています。日本はまた、民間探査と宇宙利用に関する共通の諸原則を定めたアルテミス合意の調印国でもあります。

米国内では国際博覧会の名でも知られる万博に、米国は継続的に参加しています。その伝統の一環として、2025年大阪・関西万博に参加できることを楽しみにしています。この大規模イベントは、米国の卓越性、イノベーション、ビジネス、そして世界的リーダーシップを紹介する比類ない機会です。2025年大阪・関西万博は4月13日に開幕し、6カ月の開催期間中に数百万人が訪れると見込まれています。米国パビリオンは、交流、旅行、イノベーション、宇宙探査に焦点を当てた没入型の展示を提供します。

報道の際、下記フリッカーリンクに掲載している画像や動画は、ご自由にお使いください。

<https://www.flickr.com/gp/usembassytokyo/6BY7mvBMx9>

報道関係のお問い合わせは以下までご連絡ください。

米国パビリオン メディアコーディネーター 富瀬和美 080-3279-1033 kazum@main-rose.com